

令和4年度 学校評価[教職員] 年間評価

教育方針	(1) 何のためにを追求 何のために学校に通い勉強しているのか、自己を見つめ、自己の存在感を実感しながら、主体的に学びを深める生徒を育成する。
	(2) 人格の形成 誠実（挨拶・心くばり）、気力（体力・集中力）、智恵（感性・思考）、行動（意識・存在感）、この視点から指導を行い、自己実現を図る生徒を育成する。
	(3) 社会が求める人材の育成 社会的・職業的自立に必要な資質・能力を身に付けることができるようキャリア教育の充実を図るとともに、専門分野の知識・技能を習得して資格取得を目指す生徒を育成する。
	(4) 社会に貢献 社会体験や地域交流等を通して、自らの役割を自覚し、社会に貢献する喜びを味わわせるとともに、奉仕と感謝の心を育て、笑顔のあふれる温かい学校づくりを目指す。

評価（4段階） 4：十分に達成できている 3：おおむね達成できている
2：どちらかというと達成できていない 1：ほとんど達成できていない

※数値は、3と4の占める割合（%）

重点目標	R3	R4	考 察
(1) 生徒一人一人の進路に応じた、多様な可能性の伸長と進路の実現			
○基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、学習の基盤をつくる指導を徹底する ○特別活動の精選と計画的な実施に努め、生徒の積極的な参加を促す	60	80	前年度の反省から、生徒の学習や進路決定に取り組む意識の向上を図るため実施した補講等の影響か数値は上昇した。次年度は、さらに基礎学力の向上・進路決定率向上のための取り組みが望まれる。
○大学や専門学校等への進学と就職に向けた進路指導を充実する ○職業的自立に必要な資質・能力の育成を目指すキャリア教育を推進する	72	81	
(2) 生徒の思いに寄り添い、自己実現を図るための教育相談の推進			
○教育相談部を中心に、SC・SSWと情報を共有し、問題等の早期発見・早期対応に努める ○非活動生徒を把握し、学年団と教育相談部との情報共有と早期対応に努める	88	100	数値は上昇し、相談関係は高い評価である。次年度も、校内での情報共有がしやすいように、分掌の兼務を無くし、担当者と外部機関との連携をさらに強化していく。教員の校内外の研修の充実を図る。
○生徒理解を深め適切な指導に資する研修を推進し、職員の資質向上を図る ○教育、医療、福祉などの関係機関との連携を強化する	72	77	
(3) ICTを効果的に活用し、主体的に学習を深めるための指導方法の工夫改善			
○広域通信制高校の特長とビジョンを共有し、組織的な教育支援を推進する ○様々な通信手段を活用し、迅速で正確な情報の発信を推進する	72	73	サポート校との連携をとる工夫（リモート情報交換・マニュアル改訂）を行うとともに、サポート校への訪問も増やした結果、数値は上昇してきた。次年度は、本部教員の訪問機会をさらに増やすようにしていきたい。
○動画配信等の工夫や本部校での面接指導の充実に努める ○本部校と協力校等との連携・協働のもと、対面授業を補完する手段としての各種メディアやICT等を効果的に活用した学習を推進する	72	85	

教務部	R3	R4	考 察
個々の生徒の履修状況、学習状況を把握し、適正な成績処理・管理を行う	87	96	数値は向上し4項目とも高評価となった。特に、行事の実施において、新型コロナ対策の浸透により充実した行事開催ができた。次年度は生徒会活動の活発化により、さらに行事等の活発化も図りたい。
非活動生徒を把握し、早期に発見し、早期に対応する	87	91	
生徒・保護者・教員の転編入相談や個人相談に丁寧に対応し、適切に処理する	96	100	
学校行事や特別活動を計画的に実施し、目標の達成度を適切に評価する	55	83	

進路指導部	R3	R4	考 察
各学年に応じた進路情報を提供し、早期に目標設定ができるよう指導を行う	68	83	進路に関する情報提供や活動を増やし生徒の意識向上はある程度図られた。また、就職推進員を雇用し生徒個々人に応じた指導も強化できた。進路達成も向上した。次年度は、学力の向上を図る方策を新たに考える必要がある。
進路ガイダンスや学校見学会等への積極的な参加を促し、意識の高揚を図る	87	88	
個々の進路希望に応じて、学力保障のための補習、面接指導等を計画的に行う	82	71	
在宅生・サポート校生の進路指導について、指導の機会を創出し、進路保障の充実を図る	—	75	

生徒指導部	R3	R4	考 察
挨拶、身なり、時間の遵守など基本的なマナーを身に付けた生徒を育てる	61	83	基本的な生活習慣について、数値は大きく向上した。しかし、まだ自覚不足の生徒が多くみられる。学年集会や各HRを通じて意識向上を継続して図る。生徒会については、次年度は投票によるものではなく、人選を考えたメンバーとして活動の活発化を図りたい。
生徒会活動等を通して、目的意識をもって主体的に活動する生徒を育てる	73	74	
諸活動での生徒の安全に留意し、生徒が安心して活動できる環境をつくる	96	96	
健康的な生活を心がけ、自己管理能力を向上させるよう支援する	73	83	

教育相談部	R3	R4	考 察
支援を必要とする生徒の把握と情報の収集に努め、問題の早期発見を図る	91	96	全項目100とはならなかったが、前年に続き高評価である。教育相談部・SSWの努力と各学年団との情報共有が適切に行われた結果である。次年度も、この数値に油断することなく関係者の連絡・情報共有を強化していく。
SC、SSWとの情報共有を密にして、個別の支援計画による適切な支援を行う	100	100	
受容を心がけるとともに、生徒とのふれあいを深める環境づくりを推進する	100	100	
教育・医療・福祉等関係機関との連携を密にして、きめ細やかな指導を行う	100	100	

未来教室推進室	R3	R4	考 察
マスメディア・SNS・ホームページ・各種イベント等を用いた戦略的な広報展開に努める	100	86	夢未来支援協会を廃止したため、数値は挙げていない。他の3項目については、高評価であり、更なる活動の構築を行い、現連携校との関連を強化するとともに、新たな開拓に努めていく。
●未来教育推進室の活動を通じ、こころ未来高等学校の教育の充実・発展に寄与する	—	82	
●通信制高等学校連携校の開拓を行い、連携校ニーズを捉え、的確な連携・支援を行う	—	100	
●全国ゆめ未来支援協会の活動内容の充実を図り、更なる社会貢献をめざす			

教育環境	R3	R4	考 察
●生徒・来校者が快適に過ごせるよう、教職員自らが気持ちよい挨拶を心がける	—	92	教育環境の保全については、53→76→96と順調に向上してきたが、今年度は若干下がった。他項目についても高評価ではあるが、普段から危険箇所がないか等点検の充実を図る。
施設・設備の安全点検や補修を定期的実施し、教育環境の保全に努める	96	92	
校内巡視による清掃状況、掲示物点検を徹底し、環境美化に努める	88	84	

1 学年	R3	R4	考 察
① 礼儀の習得：挨拶・身なり・時間厳守など基本的マナーを身につけさせる	64	86	全体的に高い数値となった。特に礼儀の習得が高評価になったものの、まだ自覚不足の生徒も多くみられる。引き続き保護者との連携を充実させ、生徒への継続した指導を行っていく。
② 基礎学力の向上：振り返り学習を行い、基礎学力の向上を図る	73	95	
③ 保護者との連携：保護者との情報共有・連携により心身ともに安定した学校生活を送らせる	95	95	
④ 携帯電話の適切使用：SNS等の活用について指導を徹底し、トラブルの防止と安全確保に努める	68	86	

2 学年	R3	R4	考 察
① 雰囲気の良いクラス：生徒個人の特性や友人関係を把握し、過ごしやすいクラスづくりに努める	95	86	4項目で数値の上がり下がりがあるが、全体的には高評価である。担任等が個々の生徒に目を向け保護者との連携にも努力した結果である。次年度は、進路指導を早期に取り組み、2年次での希望進路決定を実現させたい。
② 各人の目標設定：一人一人の状態を把握し、目標をもって学校生活を送らせる。	90	90	
③ 教室内の環境整備：ユニバーサルデザインに配慮した教室の整理整頓に努める	90	100	
④ 進路意識の喚起・醸成：3年生での進路決定に向けて、自己理解を深めさせる	90	76	

3 学年	R3	R4	考 察
① 3学年としての意識付け：最高学年としての自覚をもち、模範となるような意識・態度を養う	75	80	四項目ともに向上し全体的に高評価である。年度当初は、3学年としての意識・進路決定への意欲等にかけている生徒が多かったが、担任等の努力により多くの生徒が進路実現を達成できた。今後は、進路指導部との連携をさらに強化している。
② 授業態度の醸成：授業前の教材準備等、落ち着いて取り組む授業態度を養う	80	85	
③ 積極的な態度の育成：学校行事・清掃活動等に責任を持たせ、積極的に取り組む態度を養う	75	90	

④進路の決定：自分を見つめ、適正に把握し、主体的に進路選択ができるようにする	90	95	、。
--	----	----	----

在宅通信	R3	R4	考 察
①計画的な学習：指示を適切に行い、レポートや報告書は期限を守って提出できるようにする	81	80	四項目ともに数値は向上し高評価となった。特に②の「相談部との連携」については、担任と相談部等との連携を密に行ったことで不登校生徒への学習指導も充実してきた。次年度は、さらに多くの生徒の希望進路実現と、進路に迷っている生徒たちへの指導方法の工夫が望まれる。
②相談部との連携：情報の共有に努め、生徒が安心して計画的に学習を進められるよう支援する	95	100	
③確実な進路の情報提供：情報を早めに提供し、相談しやすい雰囲気づくりを行う	81	85	
④規則遵守指導：学校の規則を遵守する意識を養うため、スクーリング時に指導する	86	95	